

馬路村安田川における 近自然河川工法による改修

～ 魚類調査結果の速報～

改修工事

2007年12月22～23日



調査の方法

調査時期 改修前 2007年7月27日
改修後 2008年7月28日

調査地点 非改修区 ~
改修区 (改修後は2区画に分けて実施)

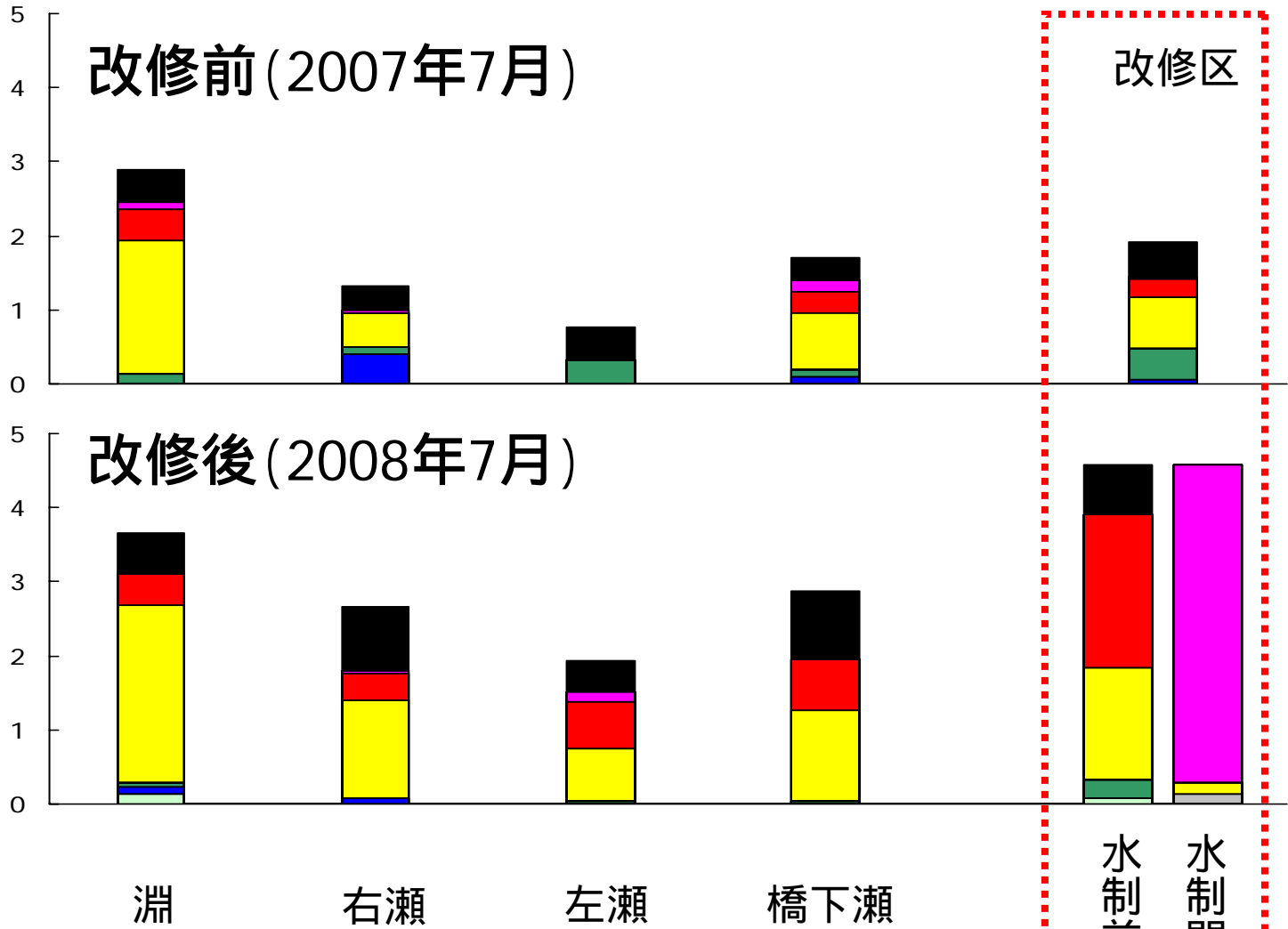
調査方法 潜水目視観察により魚類の生息密度を
観測



結果

魚類の生息密度 (尾/m²)

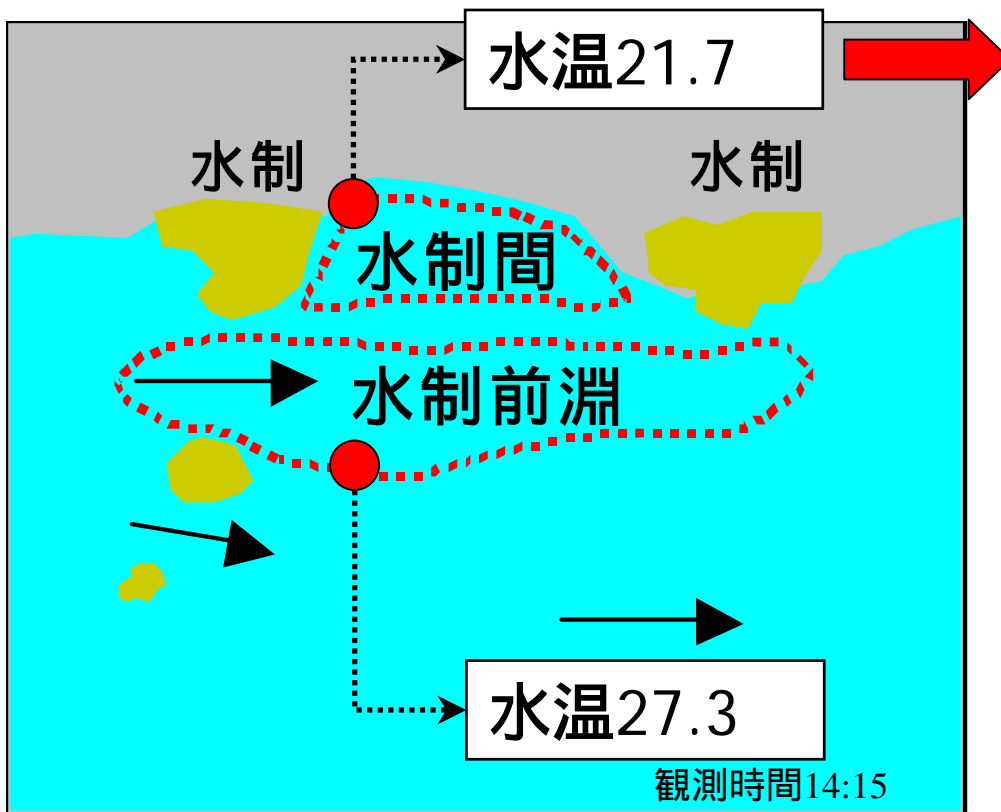
■ コイ
 ■ オイカワ
 ■ カワムツ
 ■ タカハヤ
 ■ ウグイ
 ■ アユ
 ■ アマゴ
 ■ ヨシノボリ属



魚類の生息密度は各地点とも改修後に上昇。
 特に、ウグイとアユの密度上昇が顕著。
 改修区での生息密度は2.4倍に増加。
 水制前淵ではアユ、水制間ではアマゴが高密度に分布。

水制間に集合していたアマゴ

水制内部から冷水が湧出



全長12cm程度の個体が約30尾集結

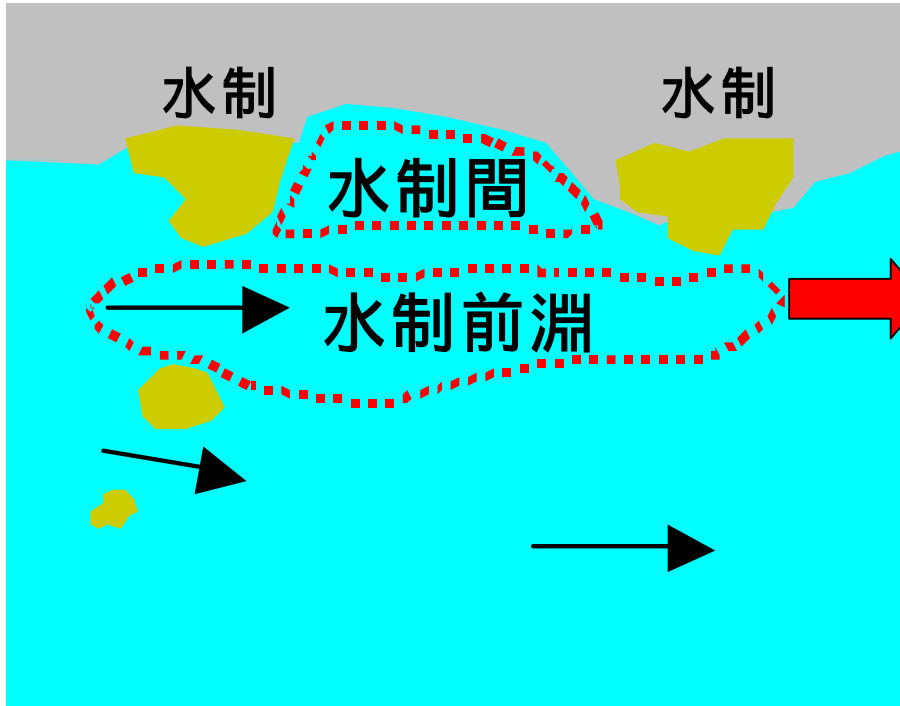
アマゴは年間を通じて水温が
20 以下の渓流域に生息する
(中野ほか、1989)

周辺水域では水温がアマゴの
生息限界を超えていたため水制間に集結

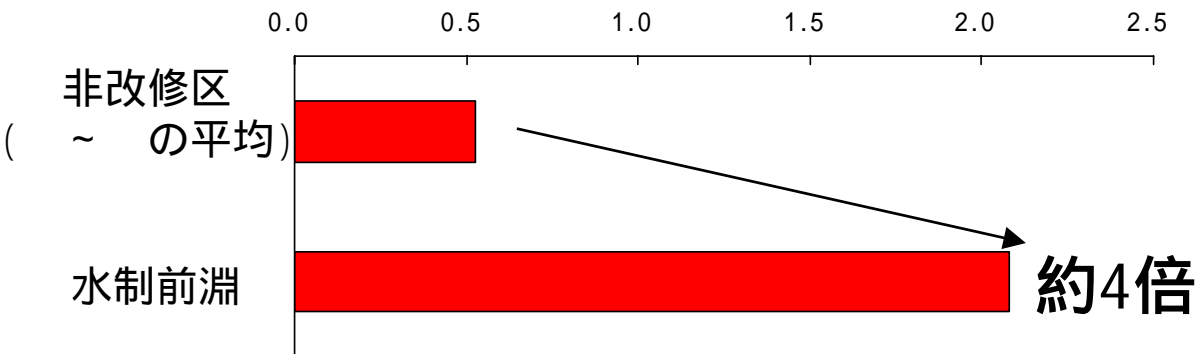
水制間に多数みられたコイ科の稚魚

水制間の静穏な緩流域が稚魚のゆりかごとなっている

水制前淵でのアユ



アユの生息密度 (尾/m²)



周辺に比べ相対的に水深が深く(0.9m)、高流速一般にアユの生息密度は1尾/m²以上で豊富

その他確認された魚類

(2008年7月撮影)



オオヨシノボリの雄(上)と雌(下)

海から馬路村まで遡上したきた魚類



カワムツ

淵や河岸の緩流部に多い



ウグイ

馬路村で最も豊富に見られる魚類。淵を好む



タカハヤ

アマノコと同じ冷水性の魚類
水制間の湧水域のみで確認